

令和3年度 学校関係者評価会議結果

I. 令和3年度 学校関係者評価会議

1. 日 時 令和4年3月16日(水) 14:15～15:15

2. 場 所 長島愛生園総合診療棟 中会議室

3. 出席者

1) 学校関係者評価会議評価委員4名

所属	種別	任期
国立療養所長島愛生園看護師長	園内講師	2021.4.23 ～2023.3.31
国立療養所長島愛生園副看護師長	卒業生6期生	2021.4.23 ～2023.3.31
国立療養所長島愛生園副看護師長	卒業生14期生	2021.4.23 ～2023.3.31
瀬戸内市教育委員会教育委員、 元中学校校長、元特任教授	外部講師	2021.4.23 ～2023.3.31

2) 学校関係者6名

長島愛生園附属看護学校 学校長

長島愛生園附属看護学校 事務長

長島愛生園附属看護学校 教育主事

長島愛生園附属看護学校 実習調整者

長島愛生園附属看護学校 教官(1年生担任)

長島愛生園附属看護学校 教官(2年生担任)

4. 評価内容

令和3年度 学校の教育活動および学校運営に対する実施状況

5. 評価資料

1) 書類審査

(1) 教育活動に関する事項

①各年度の教育計画に関する事項(学校概況書、学則・細則、学生便覧、シラバス)

②学生の学修支援に関する事項(各学年年間計画、国家試験対策)

2) 学校運営に関する事項

(1) 自己点検・自己評価の結果(令和3年度自己評価、自己点検結果)

(2) 学生カリキュラム評価(令和2年度卒業生・1年生)

II. 学校関係者評価会議評価委員による主な意見、課題

1) 教育活動に関する事項

(1) 各年度の教育計画に関する事項(学校概況書、学則・細則、学生便覧、シラバス)

全体的によく整えられているため、これらに基づいて円滑に学校経営・学校運営を行うことができる。

学生便覧に、地震・津波に対する事前対策チェック表があり、津波を前提にして危機対応されている。そのため、学校災害マニュアルの本文中にも、津波の対応を追加記載する必要

がある。

また、感染予防対策については、しっかり記載できている。よって、オンライン授業の導入や、学年閉鎖、学校閉鎖などの対応についても追加記載が必要である。

(2) 学生の学修支援に関する事項（各学年年間計画、国家試験対策、技術演習）

確かな目標のもと、綿密な計画が立てられている。2年間を通して、学校全体が、社会人基礎力の育成を土台に据えて、すべての教育に筋が通っているので良い。社会人基礎力は、一般には、①前に踏み出す力、②考え抜く力、③チームとして働く力の3点であるが、貴校は、独自に④倫理性を加えている。これは、看護学校としての教育の独自性と看護師の養成にかける真摯な姿勢が表れている。

2) 学校運営に関する事項

(1) 自己評価・自己点検結果について（令和3年度自己評価・自己点検の結果）

①昨年に比べて上がった項目がいくつかあるが、妥当である。

②下がった項目について

・「Ⅲ. 教授・学習・評価課程」の中で「学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。」の項目が、4→3に下がっている。シラバスの中で明確に示されている。100%の評価基準はないため、自分たちが課題としているところを明確にしたら良いと考える。

・「Ⅷ. 研究」について、「研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。」「研究の成果を発表している。」の2項目が3→2に下がっている。先生方の激務からして研究に充てる時間がなかったのでしょう。しかしながら、研究（研修）は、個々の教職員の力量を高め、教育の質の向上、ひいては学校教育目標の具現化につながっていくものである。よって、高度なものに取りかかろうとするのではなく、身近な解決を迫られる課題について取り組んでいくようにされても良いと思う。

(2) 1年生のカリキュラム評価（令和3年度1年次カリキュラム評価結果）

・1年生のカリキュラムに対する満足度の「項目14. カリキュラムに対して評価する機会を与えられている」について高い満足度が示されている。学生によりカリキュラム評価は学生との関係においても良い結果が期待される。

(3) 卒業生カリキュラム評価（令和3年度卒業生カリキュラム評価結果）

・卒業生のカリキュラム評価結果の中に、オンライン授業についての声がある。今後のためにも、授業について、学生や授業者の声を記録にとどめていくことが大切である。

・卒業前看護技術演習のアンケート結果の中に物品の破損があったとあるため、物品の整備が必要である。

【取り組む課題】

- 1) 学習内容に対して評価基準が妥当でない科目について、学習内容を見直し、シラバスとの一貫性や評価基準を検討する。
- 2) 学生便覧に、必要な内容（津波の対応・感染予防対策）を記載し学生に周知していく。
- 3) 演習に使用する物品の整備を行い、学生に効果的な演習を実施していく。
- 4) オンライン授業に備え、学習環境の整備の継続と学生や授業者の声を聴き、学習効果のある効果的な授業が行えるよう工夫や検討していく。